
真実

桜井葵

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真実

【Nコード】

N4239G

【作者名】

桜井葵

【あらすじ】

死んだと思われていた知夏はどうしたのか？その真実が今、明らかに。回復の道のりと綾に会うまでの道のりは楽なものではなかった。

俺は今、暗闇の中に一人でいる。

どこだかわからない。

自分が誰だかわからない。

たった一つわかっていることは、『大切な人が傍に居ない』ってこと。

すごく不安だ。

「……………」じじだよ…お」

時々聞こえる優しい声。

すぐに分かった。

この声が、この声こそが俺の求めているものだ。

でも…

姿が見えない。

会うことができない。

『会いたい。』

自分が誰だかわからなくてもいい。

彼女に会えるのなら…

そして、あの時、奇跡が起きた。

「知夏、あと少しだから待っててね」

彼女はそういった。

そして、彼女の目からは大粒の涙が落ちた。

はつきりと映像が映し出された。

光なんてひとつもない、暗闇に彼女の涙が光っていた。

「綾・・・。」

自然と言葉が漏れた。

俺の名前は、知夏。そして、彼女の名前は、綾。

彼女の涙が落ちた所から光が溢れていく。

やがて俺は光に包まれている状態になった。

そして、視界がハッキリとする。

目覚めたところは病室だった。

どうやら俺は長い間、意識不明だったみたいだ。

目覚めて初めて出た言葉が…

『綾』

だった。

周りにいたすべての人が驚いた。

それは仕方ないだろう。

だって、

長い間意識不明だった男がいきなり起きて、「綾」と言ったのだから…

俺は、最愛の女を助けたあと、男に刺された。

それで、俺は最愛の女に病院に運ばれた。

でも、その病院は市でも有名な数医者だった。

脈が弱くなった時点で死んだと告げた。

そのことで最愛の女…綾を傷つけてしまった。

俺の脈が少し強くなったとき、俺が生きているということに子分が気づいた。

それで、違う病院に移された。

そして、俺は…

今、目覚めた。

「特に異常はありません。」

そう、担当の医者が言った。

異常はない。といっても、長い間植物人間だったわけだから…入院はしなくてはいけない。
結局、一週間の入院が決まってしまった。

最低、一週間は「綾」に会えない…。

会いたい。

自分のせいで彼女が苦しんでいると思うと…胸が苦しくてたまらない。

「退院おめでとございます。」
担当の看護師が挨拶をしていた。

「はあ、ありがとうございます…」
そう言って、病院を出た。

久しぶりに見る景色はすごく懐かしかった。

『綾……』

とりあえず、学校に向かった。

「おう！！久しぶりだなあー！！綾は？」

聞いた生徒は、俺を化け物でも見るような目で見ていた。
それも仕方ないだろう…。俺は死んだ人物だから。

「あつ、それが…行方不明なんですよ……。」「
そう言って、すぐに消えた。

『は？なんで、行方不明って何？』

俺はとても大きな不安を覚えた。

「え？七瀬さんですか？知ってますよ…うわさですけど………」

この言葉で俺は飛び出した。

無我夢中だった。

そして……………

彼女の高校に編入することにした。
もちろん、同じクラスに…。

「今日は転校生が来ている。入って下さい…。」

そういつて、担任の先生は俺を教室に入れる。

『いた。』

思わず笑みが零れる。

その瞬間周りの邪魔な奴らが騒ぎ出した。

『うるさい!!』

そう思いながら、綾を見るとやはり頬が緩んでしまう。

さっきまで寝ていた綾がいきなり立つ。

彼女の目には涙が浮かんでいた。

「ち・・・・・・・・な・・・・・・・・っ」

最後は聞こえないほど小さな声だった。

「あや……」

どんなにこの時を願ったか。

どんなにお前に会いたかったか。

綾はゆっくりと近づいてくる。

真っ白に透き通った肌。

くりくりとした大きい目。

小さな口。

肩ぐらの長さの明るい茶色の髪。

すらりと延びた長い手足。

俺は昔と変わらない笑顔で、

「あや。」

といった。

「知夏!!」

綾は、俺に抱きついてきた。

久しぶりに感じる綾の体…

やわらかい肌、
髪の毛の甘い香り、
暖かい体温。

俺は綾の体温を感じていた。

そして、俺は綾が泣いているのを優しく見守っていた。

「綾、待たせたな。」

俺はそういった。

昔と変わらない笑顔で、

微笑んだ。

俺はお前を愛してる。

（後書き）

連載中の「永遠に」の番外編、短編小説です。

そちらの方も読んで下さい。

感想、評価よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4239g/>

真実

2010年12月26日14時27分発行